

令和4年度  
第1回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和4年9月30日（金）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和4年度 第1回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和4年9月30日(金) 13時30分から15時50分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員 : 工藤幸雄、難波金一、宮崎正、今野めぐみ、渡部祐子、渡部巖、宮崎ちよ伊藤比呂貴、遠藤恵子 計9名
- 欠席委員 : 亀井栄一、小野寺太、難波久男、小野寺健、亀井晴美、難波一之
- 市側出席職員
  - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、総務企画課 上野地域まちづくり企画調整主査、渡部専門員
  - 【本所】企画部地域振興課 齋藤地域振興専門員 計7名

一次 第一

1. 開 会

※ 委嘱状の交付は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、名前の読み上げで代用

2. あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 報告

- (1) かたくり温泉ぼんぼについて
- (2) 市営バス等の利用状況について
- (3) 朝日庁舎再整備事業について

4. 協議

- (1) 朝日地域まちづくり未来事業について
- (2) その他

5. その他

6. 閉 会

1. 開 会 13時30分 (進行 総務企画課長)

2. あいさつ

難波金一会長

朝日庁舎支所長

3. 報告

(1) かたくり温泉ぼんぼについて

(2) 市営バス等の利用状況について

(3) 朝日庁舎再整備事業について

4. 協 議

会長 それでは協議 (1) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明あった件について皆様から質問、意見頂きたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

委員 ①今現在、庁舎で考えているような新たな地域まちづくり未来事業候補となれるような事業が何かあれば聞きたい。  
②まちづくり未来事業の計画の8ページで、産直施設のあり方検討とあるが、多分予算が伴ってないと思うが、今後もまた何か話し合っていくという予定があるか。  
③6ページで、朝日地域健康増進施設支援事業で、例えばもう新しい団体が手を挙げた場合、今現在の組織では終了予定となっているが、切れ目なく温泉運営を継続することができるかどうか。また、新しい団体が手を上げる締め切り、予算のこともあると思うので、大体どのくらいの時期までなどあるか。

総務企画課長 ①来年度の新たな事業の見込みについて、現段階では、まだ来年度の予算要求方針が示されていないこともあり、まとまっていない。引き続きの事業もあり、新規事業という形になるのかわからないが、人材育成の地域資源を活用した発掘した取り組みについて協議・調整していきたい。

産業建設課長 ②産直あさひ・グーについて、令和4年度から令和6年度まで3年間の指定管理ということで、あさひ村産直施設管理運営組合が更新した。現在の施設が老朽化しており、また、梵字川のすぐ隣に立地している関係から、現状施設の利用について危険であるということもあり、今後の産直施設の在り方について組合と今年度、これからどのように考えているか合意形成を図りながら進めていく。

市民福祉課長 ③かたくり温泉ぼんぼの営業終了について急なお知らせとなり、また新聞報道もされ、ご心配をかけている。新たな団体から申し出があれば、適切に対応していくという庁舎の方針であり、新年度予算については、時期的にいつでもいいというわけではないので、時期に応じた対応をさせて頂く。

- 委員 根本的なことかもしれないが、地域振興の方針と政策の方向について、この朝日地域の置かれている状況は、昨日今日から始まったわけではなく、もうすでに10年以上前から、この文言がずっと羅列されてきた。  
しかし、実際はジリ貧になっている状況を考えると、この文言だけで、これから、目新しいものが出てくるとか、画期的なものが出てくるというようなことは難しいと思う。  
今までのやり方をもう少し考え直さないと、今までの状況がそのまま続いていって、最後では、人の住めないような状況になるのでは。そのために、色々な政策を行政の方で考えてくれるのは非常に喜ばしいことだが、計画の内容そのものが、10年前と今とほとんど変わってないという印象で、このままでこの地域が持ちこたえられるかどうか非常に危惧している。
- 支所長 ご意見として頂いたが、朝日地域の生活環境が大変厳しいというのは、かなり以前からの課題として、代々行政としても対応してきた。それでもなかなか解消できないということも、地元の皆さんをはじめ行政も認識して、何とかそれを克服できるように、今の色々な新しい技術や、もっと知恵を絞りながらやらなければいけないのではと強く感じているので、さらに委員の皆様からご指導いただきたい。
- 委員 いろんな事業がある中で、高校生の通学費補助支援や、若い人を対象としたプロジェクトなど、年齢層の若い人たちに対しての支援が少し増えたのがうれしい。勝手な印象だが、今までだと高齢者や福祉への支援が多かった気がする。福祉面も大切だが、タイの子供の村学園に学生を派遣したり、チームWaGeShoの取り組みをしたりと、朝日地域が若い人たちが住みやすい楽しいと思って、ちょっと不便だけど、いい所だと若い人たちが思ってくれば住み続けてくれるだろうし、若い人たちがいることで、高齢者に対してもっと目を向ける事ができるのでは。  
今現在住んでいる人たちが楽しく暮らしていることが、外に向けて発信できれば、朝日地域に以前住んでいた子がまた戻ってくるのでは。そういうワクワクできるような地域にできたら本当にいいと思う。現在、コロナの影響もあるが、反面リモートなどネット環境がすごく良くなってきたので、直接でないで交流できないではなく、そういう技術フルに使って交流できる地域になったら良い。
- 総務企画課長 紹介して頂いた事業について、新規もあるが、地域まちづくり未来事業発足時から続いている事業もあり、制度の活用を図りながら、地域で活かせる内容を検討している。人材づくりや人のネットワーク作りについて支援していきたい。スマホなどのデジタル技術を活用した部分では、朝日庁舎の新機能の部分でも説明したが、居ながらにしてネットワーク作りができる半面、人と人との繋がりが希薄になるという事もあるので、実際に集まって会議を行う部分も合わせて機能させたいという所もあるので、二面性を持ちながら事業に生かしていきたい。
- 委員 やはり若い人たちが地域に入って活動できるのはすごくいいことだと思う。10月に駅伝大会があるが、地域の中で声をかけてもらって練習に参加していくということで、このようなところから地域と繋がりを持てるようなになればと思う。  
ぼんぼの営業終了について知らないでいた。本当に残念だなと思う。  
誰か引き受けてくれる団体が早く出てくれるといいなと思う。

高校生通学費補助について、4月から家でもバスを利用するようになり、すごくありがたい事だと思う。ただ、実際利用してみると、運行の本数は少ないのは仕方ないと思うが、路線によっては、途中までしか定期券で乗車できず、そこまで迎えに行かなければならない状況がある。そのような不便なこともあるので、なかなか利用しづらい部分があるのかと感じていて、それが原因で支援事業を活用できない人もいるのではと思う。実際の例を出すと、朝日スポーツセンターから、川端通りまで乗車する場合、以前、親世代のときは、朝日スポーツセンターでも熊出の頭首工でも降りられたのが、熊出を通る路線は駄目となった。定期券の範囲内で下車するとなると、共通するところが楡引地域の板井川となり、結局そこまで迎えに行かなければならない。

庄内交通も会社としての考え方で仕方ないのかなと思いつつ、家の前を通る路線は朝夕しかなく、日中帰ってくる際は朝日庁舎行きのバスとなり、板井川で降りなければならず、不便に感じている。

総務企画課長 定期券の件は、新しい「ショウコウチェリカ」という紙ではなくICカードの定期券になってからの問題だと思う。庄内交通に庁舎からも相談をさせて頂き、すぐには解決できないかもしれないが声があるということを伝えたい。

委員 朝日スポーツセンターと熊出の頭首工までの定期券の高い方の金額を支払いますよと親が相談したが、それも駄目だった。

地域振興課 相談してみたが、庄内交通からは、路線が違くとICカードの処理システム上致し方ないと言われている。

会長 この問題は非常に通学生を持つ親としては悩ましい。その路線だけでないが、今のシステムでいうと、片方のバス路線しか対応できないので、昔のように大網線でも、落合で降りる事ができたなど、そのような処理ができないという現状であり、運営しているバス会社と交渉していただければありがたい。

委員 木質バイオマス燃料を新庁舎で使ったり、ソーラーパネル設置したりというのは、いいこと。どの辺の山の木を切って使うのか興味がある。

戦後の拡大造林で、杉がたくさん植林され、かなり密度が高い状況が私有地を含めてたくさんあるが、もう少し木を間伐して本数を減らしていくと、木の下に光が差し草地が増えて、ウサギが増えてということが起こり、ねずみが減ったり猟師がウサギを捕れるようになったりなど、山をもっと活用できるようになるのはいいこと。

家では薪ストーブを使っていて、年に1〜2本ぐらいいしか木を切らせてもらってない状況で灯油買った方が安いということもあるが、それはそれで薪ストーブのよさを感じながら使っている。やはり、朝日地域は本郷とか、名川周辺はまだ田んぼが広い。

田沢の方に行くと、田んぼの面積が少なくなり、山の資源で生きてきたということと、水資源がかなり豊富だなどということがあり、前回の会議で水力発電を活かせると発言したが、おそらく太陽光より出力が出るのではと思いつつ、権利の関係でなかなか難しいところもありそうだ。何かそういう電気料金の高騰とかエネルギーのこととか、様々あるご時世なので、自給できるものを自給しながら、適正な価格でお金を住民からもらってみたいなきっかけができたらしらいいのかなと考えている。地域レベルで小水力発電をやっている岐阜県石徹白が参考になりそう。

県道の草刈りをロータリー除雪機などでやっているが、ああいうものをもっと普及でき

たらいいなと思う。もう少し機械化・効率化していくという、田んぼの畔刈りもそうだが、草刈作業を軽減して、採算が合うように委託とかできれば思う。どうしても人が減ってくる。

あと、雪囲いとか、そういう時間を短縮できたら、雪国に住んでいる負担を軽減したり、他のことができたり、雪おろしも軽減するよう克雪への支援をお願いしたい。

大網のある家のように、屋根の両脇に大堀があって何もしなくても融雪ができるのが理想的だと感じる。

そういうところには、なかなか平等が働きづらいが、何かしら支援ができるのではと思う。

総務企画課長

朝日庁舎建設に使用するのは、鶴岡産材を想定して建設する予定。朝日地域には豊富な木材資源があるので、木質ペレットボイラーの活用など公共施設の建設モデル的にやっていきたい。

産業建設課長

水資源については、水利の問題はあるが水は豊富にあるので有効に使えば、利水という観点で雪を溶かしたり、発電事業に利用したりという方法がある。朝日地域には発電所が多数あり、企業局では大鳥地域に3ヶ所、それから東北電力は7ヶ所あるので、ソーラーパネルと比較しても、非常に有効な電源だと個人的には思っている。

砂防ダムを活用した小水力発電について、新庄河川事務所から情報提供があったが、地域の中で、売電事業を地域ぐるみで取り組んで、地域の収益としながら、電力の自給という形で取り組めるのであれば、補助事業により合意を得ながら地域を挙げての取り組みという可能性はある。

森林資源の活用、間伐について森林組合と連携しながら進めているが、今後も鳥獣被害が増えているので、適切な管理という面では、行っていかなければならない事業だと考えている。

委員

①大網で生活しているが、除雪等の雪の支援がなければ生活していけない。住んでいて大変に思うのは屋根の雪下ろしで、少なくとも1.5m以上積もって、1シーズンで5回下ろす。多い年には7~8回も下ろすこともある。今後、高齢者世帯になったら本当に大変だと思う。今までは多世代で若い世代もいることが多かったので何とかなっていた。

②観光の面で、国道112号を車で走っていても、湯殿山神社の入り口付近に何も無い。観光地にはなっているが売店など何も無い。いろいろな人が国道を走っていて、標識はあるけど、何も感じずにただ素通りしているのでは。県外の人も通ると思うので、宣伝の意味で看板をもっと目立つようなものにして、ここはなんだろうと思わせるようなものを立てたり、少し駐車場を広くして案内看板を置いたりなど、もう少し工夫した方がよい。湯殿山の仙人沢はとても素晴らしいので、もっと宣伝して観光に生かした方がよいのではと思う。

③イベントについて、年に大きいものを3回はした方がよい。一つは子供中心に、朝日だけでなく鶴岡地域や県内から人を集めるような、テントを張るなど野外体験をさせていくようなイベントを100~200人単位で集めてやる。楽しい体験をすることで、もう1回来てみたいと思ってもらいたい。

二つ目は10~20代の若者を集めて、新潟だとフジロックなどあるが、ロックフェ

スなどそういうものに若者は引き寄せられる。朝日地域がそこにあるということを宣伝して、若者を引き寄せて、もう1回2回行きたいなどと思わせることができれば。

三つ目は、ほかの成功しているイベントを真似しながらも、徐々に地元にあったイベントに変化させながら、大きいイベントをやってもらいたい。コロナ禍もあって地域向けに色々と苦労しながらやっているが、内輪だけではなく、もっといろんな人が朝日地域に来てもらって、もっと賑やかな朝日地域にしてもらいたい。

総務企画課長

①雪の関係について、以前から継続して大変な状況であるのは理解している。地域まちづくり未来事業の中で当初から助け合い玄関前除雪などの事業をおこなっているが、高齢者が多くなっている状況で、地域振興計画を策定する中でも人口減少とともに世帯員数が減っている状況が顕著であり、若い世代がいなくなって高齢者だけになるなど、集落維持が大変になっている。雪下ろしに関しては、集落単位の除排雪事業や福祉施策としての雪下ろし補助はあるが、一般の雪下ろしには助成が無い状況であり、克雪住宅等の支援はあるものの不十分な部分もあると思うのでご意見を伺いながら検討していきたい。

産業建設課長

②湯殿山神社について、入口の案内がはっきりとしていない。観光への活用ということでは、生まれかわりの旅ということで庄交コーポレーションでも、今年は事業活用した新たな観光事業も行っており、朝日庁舎としても、日本遺産の構成文化財でもあるので、湯殿山の観光活用について今後も進めていきたいと考えている。六十里越街道など、非常に魅力の多い地域資源でもあるので、ご意見を今後に活かしていきたい。

③イベントについては、現在コロナの影響によって朝日地域の大きなイベントであるタキタロウまつり、雪まつりができていない。タキタロウまつりについては、大鳥地域において、非常に多くの人を動員できるイベントでもあり、雪まつりについては、豪雪地帯の朝日ならではのイベントと思っている。これらのイベントも、ブラッシュアップをしながら、皆さんから喜んでいただけるようなイベントとして育てていきたいと考えており、今後、いただいたご意見を参考に新たな取り組みをしていきたい。

委員

事前送付資料を一通り見ていたら、この文章の前面は、おそらく朝日村時代の50年前の文章と同じでないかと思う。

なぜならば、確かに恵まれた自然、伝統文化というような言葉はどこにいても出てくる。それはそれで変わらない環境なのでいいわけだが、ただ、人口が減り、高齢化が進み、そして少子化もある。減反による田の荒廃、そして農業がどんどん担い手がいなくなってきて、商店もなくなってきている。

交通網では、かろうじて市営バスは運行しているわけだが、かなり不便になってきている。それに加えてコロナ禍や、行政の委託事業の推進により、効率化することも必要で効果的な運営を図ることも必要だが、反面行政から直接的に見えない部分が多々あるのではないか。

また、行政で従来やっていた事業がコミュニティ化され、朝日地域に三つのコミュニティセンターができるなど、住民の置かれている状況が自然環境以外のことが随分変わっていると思われる。例えば従来保育園や福祉事業も直営であったものが、委託事業になってきている。

このような状況で、予期しないことが起きた場合、後追いで対応せざるをえないような

環境での政策ができてきている。そういう中で、果たして根本的な問題をもう少し触れないと駄目なのではないかなという気がしてならない。それについて、みんなで考えなければならぬことだと思う。

社会福祉協議会の方で住民から調査をした地域支え合い活動に関するアンケート調査があったが、朝日地域で住み難さ原因は何かのランキングではトップは雪であり、その次に雪囲いがくる。そして屋敷が広いので草取りであり、現実問題としてそういうことで困っている。

未来事業で玄関前の除雪に取り組んでいるが、除雪をしてくれるのも老人である。そして買い物補助などをしているのも老人であるので、これからは担い手の育成なども必要。自分が老人になって人の手を借りる前に社会奉仕をできるときにしておくというような、そういう担い手の育成など、今後の高齢化社会の地域では大事なことではないかと思う。

他にも、山ぶどうの振興も朝日の大切な特産だった。出荷収量の制限が始まってから3～4年くらいなり、価格も下げられてから6～7年経過し、生産意欲も非常に減退していると聞いている。(ワインまつりなど) イベントもできないということもあるが、やはりWaGeShoの集まりなどにも、非常に期待をするところである。

それからもう一つ、ここに庁舎が新しくできる。それで、一体何が変わるのかと思う。消防署と役場が一緒になって効率化するのはいいと思う。それは、市から見た場合の建物のあり方であり、もう一つ住民側から見た場合のメリットが大切ではないか。

やっぱり住民が使いやすくなったな、一元化されて機能面でも利用しやすいと言われるようなそういう施設であって欲しいし、朝日地域をはじめとした過疎対策の司令塔になるわけなので、それにふさわしい対応をしていく必要があるのではと思う。

総務企画課長

振興計画について、前文の部分はあまり状況変わっていないというのがあるが、少しずつ変化させながらこの施策の取り組みの背景としての意味で掲載している。

人づくりや、ネットワークづくりについて、これまで足りていない部分もあると思うが、コロナ禍で中断してしまった部分も含めて、これから詰めていきたい。

庁舎建設に対する期待のお話を頂いた。住民にとって何がメリットかは、一番の課題の部分になると思う。現在、お示ししている部分については、施設整備の整備方針ということで、施設の設備だったり、構造だったりの部分の話をしているわけだが、活用する部分に関しては人の問題、特に朝日庁舎、朝日村役場の時代から比べると職員数が減っている状況の中でサービス維持が課題であり、地域活動に対する支援に関しても足りていない。今後、デジタル化を含め、庁舎の機能と共に本所の機能の一部を移転という説明をする中で、人的な体制の確保をしながら全市対応の部分も担っていく、発信していくということを含めて、より良い朝日庁舎ができるようにしていきたいので、ご意見等頂けるとありがたい。

副会長

皆さんのお話を聞いていて、まさにその通りだなという思いで話を聞いていた。私も保育園に勤めていて、そんな中で、森の保育をずっとさせていただいてきて、山の問題、森林の問題、そして研修に行くと必ずその間伐がすごく大事だと。山荒廃が続いていて動物が里におりてきている。そういうことを聞くと、胸が痛くなる。自分の家の敷地内はどうだろうかという、なかなか整備ができないのが現状である。

やはりそういう担い手が少なくなっており、山を知っている人が少なくなっているのではないかと、みんな人材育成に繋がっているのではないかと考えてしまう。

保育業務をやってきて、子供の育成は小さいうちからだと思う。小さいうちから体験をさせ、その体験の中から大人から学ぶ、自然と見て学ぶ、聞いて学ぶ。研修を受けて学ぶというのは、教育のあり方だと思うが、そうやって大綱で森の保育をやっている時に、市内のお子さんたちが遊びに来て、とても良いところだと言って「お父さんここで住もうよ。」と言ったらしい。そうしたら、雪が多くて、ここから市内の職場に行くまで遠いので無理と言ったことが、子供にとってはちょっとショックだったというエピソードを市内の保育士から聞いたことがあるが、でも、私は嬉しいなと感じた。良いところだということは分かってくれたと思った。

やはり子供から育成していかないと無理だということが分かった。最近芸文協の中でも、そのような話が出てきて、子供と大人が交わって芸術を生かしていく、文化を生かして交流をする。お祭りを見ている、大人も子供も一緒になって、ワーッと盛り上げられるものはお祭りである。

その中でその地域に根差した、何か地域の伝統芸能のようなものがあると、それが軸となって、みんなが一生懸命になって盛り上げようとする。その活力がその地域を活性化させていくのではと、皆さんの話を聞きながらも思ったところである。

未来事業計画の中に芸文協関係のことは、ほとんど入っていないので少し残念だが、例えば大綱地区の大黒舞について、子供たちが一生懸命取り組んできており、大綱小学校でも取り組んできた。それが小学校なくなったら、どこでやったらいいのかわからないとなり、そこで敬老会でやろうとなったがコロナの影響で敬老会がなくなった。

またどこで発表すればいいかとなって、東部地区のまつりでやろうとなったがこれも（コロナの影響で）なくなった。どこでもやれない状況が続き、だんだん踊りを忘れていく。大黒舞は毎年を踊っていないと、技術的にも磨きがかからない。

そのままだんだん忘れ去られていってしまうのではという心配する周りの気持ちもあって、あさひ産業文化まつりの芸能発表の中で、発表をお願いした。

一方、南部地区のタキタロウ太鼓は、朝日大泉小学校から始まったと思うが、今ではほとんど影を潜めてしまっている。祥雲御山太鼓が太鼓を引き取って活動をしようとしたけれども、なかなか子供たちが集まってくれないという状況もあり、その継承が難しいということで悩んでいた。何かそういう盛り上がり場所、お祭りという場所などに出演するという、きっかけがあると気合いが入ってくる。

芸文協もそうだが、2年間、あさひ産業文化まつりで芸能発表ができなかった。今回芸能発表するようになったら、皆さん一生懸命になって練習を始めた。

やはり何か目標がないと、みんな一堂に会してとか、一生懸命になる目的が見えないと一緒に成れないのではないかと。

こういった活動に予算を少しでもつけてもらえると、大人が意欲的になり、子供たちを引っ張り込んで、自分たちの技術芸能を伝えていきたい、そういう気持ちになる。

総務企画課長

芸術文化活動について、芸文協の会議でも、発表する場がない、モチベーションが上がらないという話があった。今回はコロナ禍の中ということもあるが、何とか発表できそうだということで、各団体が準備していると聞いている。子供の活動に関する話があっ

たが、未来事業に挙げていない状況である。どちらかというとな市の取り組みの中で地域活動に支援する「まち活」など、いろんな制度がある。こういった既存の制度に乗った形で支援も可能だと整理していたが、その枠組みを超えて活動したいということであれば、未来事業の活用も考えられるのでご相談いただきたい。

会長

新庁舎について、時間外を含めて利用が可能なスペースがあるということだが、時間外というのは、平日のみを指しているのか、それとも土日祝日も利用していいということなのか、どのような利用方法を考えているのか。利用方法について、考え次第で住民がそれぞれ検討の余地があるのではと思う。

総務企画課長

また、その管理はどうするのか。土日も朝日庁舎で利用が可能だとすれば、コミセンで受けている業務は、果たして将来的に適当なのかということも検討しなければならない。朝日庁舎の供用開始が令和6年度中という話でまだ先なので、予算措置の関係も現状としては調整が取れていない状況である。今、中央コミセンで受託している行政用務については、これまでの各庁舎の状況を見ても、死亡届などの手続き関係が、休日の場合に違う場所にあるというのは中々無いという認識がある。基本的には庁舎の中と考えており、以前、旧開発センターができて行政用務が開発センターに行った段階で、朝日村役場庁舎の夜警員がいなくなっている状況を考えると、中央コミュニティセンターの意向もあるが、できる限り庁舎の中で完結できるように検討したい。それぞれの役割については、新庁舎では、多目的スペースということで、専用の会議スペースを確保しているわけではなく、バス等の待合所といった一時的な利用が中心になる。中央コミセンについては、ロビーや会議室等があるので使い分けができる。新庁舎に関しては大きな会議室を有していないということからも、基本計画でも示したが、公共施設ゾーンという考えから避難所などの機能など大きな役割を担って頂きながら、こちらの新庁舎は行政スペースとして確保するとしているので、コミセン等と協議調整しながら進めていきたい。それぞれ意見をいただいた中で、朝日地域の地域振興において、施策の方向性はそれぞれあったわけだが、この施策を進めるにあたっての未来事業を含めてどうだったのかと私も感じるところがある。

会長

一例として、住んでいる地域の中でも若い人が結婚したという話があり、良かったなと思ったら、来年は一家総出で朝日地域を出てしまうという。どうしても聞くと雪がいっぱいだから、仕事等に通えないという。うちの息子も結婚して、親元を離れて夫婦で暮らしている。どうしてかという、時間帯によっては除雪しておらず、とても彼女にその雪道を運転させるわけにはいかないという気持ちも含まれているようだ。

この住みよい環境の中に、克雪というところは、朝日地域ものすごく大きいウエイトを占めていると思う。若い世代も、一定程度の時まで住んでいられるが、結婚をして、結婚した相手の仕事によっては出ざるをえないという状況が生まれる。

子供たちにこの自然豊かな地域の中で体験させるというのはものすごくいいことで、子供時代の思い出は、一生の宝になっていると思う。だから、除雪体制含めて克雪のあり方について根本的に考え直さないと、定住構想というのはなかなか進まないのではと思う。今、皆さんから出たことでも雪のことが大変多かったと思う。そういう意味で、もう一度、いろいろな角度で検討しながら、住民の声を聞きながら、どうしたらいいかということを検討していく必要がある。

もう一つは、この庁舎は、新築と同時にデジタル化の基地となるような形だが、この庁舎のデジタル化を進めるにあたって、若い人たちの意見というのは、どこで聞くことになるのか。いろいろな地域を回っていろいろな声を聞いてきたかもしれないが、若い人たちがどのくらい参加していたのか。やはり今はWaGeShoを含めて、集まりをしている所に行って説明するなど、意見を求める機会を作らなければならないのではないのか。その人たちの声はやはり大事だ。高齢者や40代50代の人たちの意見も大事ではあるが、将来この地域を背負っている若い人たちの意見を聞きながら、デジタル化で何をどうしていったらいいかを考える。そして若い人たちが、頑張っている朝日地域の姿を全国に情報発信できるということが、この土地に全国から協力支援の輪を求めることができるというふうに繋がっていくのではないかと思う。それがデジタル化の最大のメリットだと私は考えている。

支所長

克雪に関しては、私も地域外から通勤しており、道路除雪をはじめ朝日は雪の課題がとても大きいと実感しており、引き続き計画に盛り込めるよう取り組んでいきたい。

総務企画課長

デジタル化については、現段階で朝日庁舎としての進むべき方針としては、デジタルを活用することで何か便利になるなどの支援を行うものが多く、空間接続を利用しての南出張所と朝日庁舎をつなげているように、行政サービスを家に居ながらにして体験できるとか、見守りサービスに利用するなど考えている。また、マンパワー不足にデジタル技術を活用する例として鳥獣害被害防止対策などが挙げられる。

会長がおっしゃっている人の交流の点や人的なネットワーク+αという点では、色々な施策が進んでいる中で、先進事例を参考にしながら、朝日地域共創プロジェクトやチームWaGeShoの事業を進めながら、デジタル化活用策にそった人材育成やデジタル化のブレインとなれる人材の確保を含めて取り組んでいきたい。

若い人の意見というところでは、朝日地域共創プロジェクトの取り組みや、朝日庁舎のこのデジタル化に関してその新しい何か設備や仕組みとか必要かと議論になったが、Wi-Fiを飛ばすなど、今までやっていることは当然対応可能ではあるが、反対に居ながらにしてバーチャル空間を使うなど、そういう形の部分だと、反対に新庁舎に何かを置くというよりは、考える人達が新庁舎にいて、そういった取り組みをそれぞれの地域や使える場所を考えるというのが一番の課題となっている。

会長

ぜひ朝日地域共創プロジェクトで中央コミセンと公益大の連携の部分や、チームWaGeShoがプロジェクトに参加している場面に顔を出してもらい、こんな風になればいいというようなことを感じてもらえればと思う。

委員

新庁舎のことだが、基本的に災害に強い、朝日地域の中央にふさわしく威厳のある建物にしてもらいたい。木造ということで鶴岡産材の木材を使うような計画だが、この間の台風14号のときに最大瞬間風速70mという風が吹いた。去年までこのようなことは無かったと思う。

だが、この先50年を考えたときに、新庁舎は何億円もかけて建てるものなので、どれだけ持ちこたえるのか。木造した場合、風速何十mに耐えられるかということを知りたい。また、新庁舎の地盤について、かさ上げをするのか、このままで建てるのか。

総務企画課長

質問の一点目について、建築基準法に定められた木造建築とコンクリート構築物の基準を満たした形だと考えている。

鉄筋コンクリートの作り、木造の作りそれぞれ色々な考え方があるが、鶴岡市の建築物の取り組みとして、木造建築を推奨するという基本方針がある。公共建築物についても、朝日中学校や朝日保育園などを木造建築で建てており、行政庁舎だと羽黒庁舎が全市の基本的な方針の中で行っている。

建物の位置については、出入口の関係もあり現状の高さで建築する予定である。

委員 市の決まりというのは分かった。この間の台風でテレビを見ると丈夫な建物に避難してくださいというアナウンスがあって、ほとんどの人は何十階建てのビルに逃げていた。木造の建物に逃げようとはならない。今後、台風の威力が増した時、どれだけの風が吹くのか心配である。

総務企画課長 避難所に関しては、朝日中央コミセン、あさひ小学校が基本的な避難所になる。新庁舎の図面を見てもらうと分かる通り、会議室兼災害対策本部室や消防の施設は、鉄筋コンクリート造の部分となる。基本的には庁舎の市民スペースも壊れない前提で整備を進めるが、災害対策機能に係る部分は、鉄筋コンクリート造の消防分署の上のスペースが担うという計画である。

委員 新庁舎の設計の中で、チップボイラーと雪対策、太陽光発電ということがあるが、これからの時代を見据えた非常に良い取り組みなので、新庁舎がモデル的にデータ等公開されて、地域の住民が活用できるようなモデルとなるような形にして欲しい。

山間地域の環境を生かしたチップボイラーとか、或いは一番苦しんでいる雪対策、それから山間地で雪が多くて、日照が少ない環境下での太陽光発電であるので、こういうことが、この地域でコストの面からも我慢できる範囲だなという、いろいろな角度から見て、自分もやってみようとなるような形、模範となるような形で、それが公開できるような形にして、ぜひ山間地域の振興に繋がるような生かし方をして欲しいと思う。

総務企画課長 チップボイラーに関しては、新庁舎設計の中で進めると共に、全市的な取り組みで「エコシステム協議会」という森林組合や企業を交えた協議会で検討している経過がある。この事業については、「山形自然エネルギー」という会社が県から委託を受けている事業を紹介してもらい、こちらでも、チップボイラーの性能評価等について検討を進めている。ただ、委員おっしゃる今後の活用という部分だが、チップボイラー、ペレットストーブ、薪ストーブ、ボイラーのストーブ等も色々あるので、設備の大きさによって施設の大きさによって、それぞれのメリット、デメリットがあると聞いている。新庁舎で使用したデータに関しては、提供、公表を考えているが、例えばチップボイラーは面積が大きい施設に有効で、それより小さいとペレットストーブ、もっと小さいと薪のストーブとなるなど、庁舎のデータが直接、家庭向けの参考となるか分からない事だけはご承知おき頂きたい。

委員 地域で困っていること、活用して欲しいことを、こういうところでモデルにしてもらい、住民に示してもらいたい。それによって課題が何点か解決されるかもしれない。例えば克雪住宅の3例が市営下名川住宅にあるが、あれをまねて建てた人もかなりいる。そういうこと含めて、やっぱり住宅の規模に合わせた形で活用できる範囲のものはあると思うので、ぜひ公開してもらいたい。

委員 ①マイナンバーカードについて、お店に来たお客さんの中で、2万円もらえるからカードつくらないと、というおばあさんがいた。内容を理解していない人が多く、分かる

範囲でかみ砕いて説明したが、まだ説明が足りないようだ。ポイントはどうやってもらうのかなどかなり悩んでいる。マイナンバーカードがポイントカードだと思っている方や、Sモールでないで作る事ができないと勘違いしている方もいて、カード取得を推進するのは良いが高齢者にはわかりにくいのでは。もう少しかみ砕いて説明してもらえるとありがたい。

②朝日分署前の花壇について、最近花が植えられていないがどうしたのかと聞かれた。だれが植栽をやっているのかなど分からず、答えられなかった。今後、消防分署が庁舎の方に移転することを考えると、花壇と分署後地が空き地となって荒れてしまうのが防犯的にも心配である。

総務企画課長

②について、朝日婦人の会が中心となって取り組んできたが、会員数の減や会員の高齢化により、残念ながら維持管理が難しいということで会の解散の一つの要因にもなったと聞いている。その後、引受先が見つかっておらず、現状としては道路管理者に管理をお返しした状態である。何とかしたいが、植えるだけでなく水かけなどの管理の部分があるので、仕組み作りが難しいという面を含めて現状に至っている。

市民福祉課長

(マイナンバーカードについて説明)

申請率について、9月11日現在で鶴岡市全体では、6月に40%だったものは50%を超えている。一方朝日地域は、6月に32.9%ということで市全体よりもかなり低かったが、今日9月30日現在、暫定にはなるが45~46%まで上がっている。

これは集落の公民館や企業、学校等へ出張申請をさせていただいて、皆様から申請していただいたおかげもある。

マイナンバーカードの説明について、自治会長宛てに各公民館に出前で説明に伺うチラシを配布した。何集落かは夜間や土日に職員が出向いて説明を行い、その場で申請受付も行った。

マイナポイントについては、朝日庁舎でカードの受け取りの際に、どのように受け取るのか聞き取りしている。電子マネーやクレジットカード等で付与される形になり、それを説明するのになかなか苦慮しているが、一人ずつ、カードを作るまで説明しているので、わからないことがあればお問い合わせ頂きたい。

要望があれば、職場や公民館などに、日程が合えば土日でも夜間でも伺うので、お声掛けをいただきたい。

今日の会議後も市民福祉課窓口で受付する事ができるので、申請においていただきたい。

(その他)

その他 なし

(5. その他)

総務企画課長

他に皆さまから何かございますか。

無ければ閉会のご挨拶を副会長にお願いしたいと思います。

副会長

皆様お疲れ様でした。これを持ちまして、朝日地域振興懇談会を閉会させていただきます。  
ありがとうございました。

(終了 15時50分)